



東アジア
文化都市
2023 静岡県
Culture City of East Asia
2023 SHIZUOKA
静岡県主催事業



ふじのくに
地球環境史
ミュージアム
Museum of Natural and
Environmental History,
Shizuoka

イネはどこから来たのか？
なぜ米は田んぼで作るのか？
米を、食べているか？
田んぼの自然は豊かなのか？
そこに未来はあるのか？

ふじのくに地球環境史ミュージアム企画展

イネ・米・田んぼ

—人がつくる米 _ 米がつくる世界—

2023.11.11 [土] ▶ 2024.3.24 [日]

ふじのくに地球環境史ミュージアム企画展示室1・2

主催 | ふじのくに地球環境史ミュージアム 協力 | Dinh Thi Lam・石川 隆二 (弘前大学)、
公益財団法人 日吉の森文化財団、NPO法人 静岡県自然史博物館ネットワーク、小栗 進
(敬称略)

撮影地 | 久留女木の棚田(浜松市) 撮影者 | 小栗 進

【開館時間】10:00-17:30 (入館は17:00まで) 【休館日】毎週月曜日 (月曜が祝日の場合は次の平日)、年末年始(12月27日~1月3日)

【有料企画展観覧料】一般 600円(500円)、小学生以上大学生以下・70歳以上 300円(200円) ※ ()内は前売料金及び20名以上の団体料金。

※身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている方とその付添者1名は無料。 ※常設展も併せてご観覧いただけます。

【お問合わせ】ふじのくに地球環境史ミュージアム 〒422-8017 静岡市駿河区大谷5762

Tel | 054-260-7111 Fax | 054-238-5870 E-mail | info@fujimu100.jp Web | www.fujimu100.jp



かわる米、かえる米

私たちの主食として当たり前のようにそこにある米。もとは野に生きていたイネが、どうして米を生む「稲」となったのでしょうか。そして、米をめぐる人々の営みの歴史は、地域の自然や文化にどのような影響を与えてきたのでしょうか。

本展では、東アジアの稲作や米食文化に焦点を当て、「米とは何か？」を問い直します。

見どころ② 2m超!のイネ「浮稲」



東南アジアの低湿地で栽培され、大きくなると数mにもなる浮稲。迫力満点の実物標本を展示します。

見どころ① 巨大「籾(もみ)」彫刻



田辺 光彰《野生稲の発芽》(部分)
2002年
田辺光彰美術館所蔵

野生イネをモチーフに作品を作り続けた世界的アーティスト・田辺光彰氏の彫刻作品。必見です。

見どころ③ あなたも米博士になれる!?

米に関する様々な、人に教えたくないような豆知識(トリビア)を厳選し、展示室内のいろいろな場所で紹介しています。

これであなたも、米博士に!?

「インディカ米はジャポニカ米よりバサバサ」はウソ?

イネは、外来種。

稲作=水田ではない。

もち米って、何?

Special Exhibition by Museum of Natural and Environmental History, Shizuoka, in 2023

Oryza, Rice, and Paddy Fields: We Crop Rice, Rice Changes the World

Rice is our staple food that we take for granted. How did wild rice, which had been originally grown in the fields, become the rice plant that produces our rice? And how has the history of people's activities surrounding rice affected the local nature and culture? This exhibition focuses on rice cultivation and rice eating culture in East Asia, in order to consider a question, "What is rice for mother nature and us?" Six sections are set in the exhibition: natural history of *Oryza* and the relatives, history of rice cropping, variety of rice cropping depending on local environment, biodiversity in paddy fields, our future with rice, and rice derived culture in East Asia.

6

米に見る東アジア文化 — 米を愉しみ、米に依る —

日本・中国・韓国における「食」をはじめ、景観や祭祀、文学など様々な場面に活きる米を紹介。いかに私たちの暮らしが米に支えられているかを振り返ります。

5

人・米・未来 — 米と豊かさ、そしてこれから —

農業や大地の改造など、稲作による環境問題は古くから指摘されています。「米ばなれ」や「耕作放棄」も深刻です。これからも美味しい米を食へ続けるには?

民考

企画展

イネ・米・田んぼ

—人がつくる米_米がつくる世界—

「米」とは何か？

1

イネの自然史

—目からウロコの「イネ植物学」—

そもそもイネとはどういった植物なのか。イネの進化の道筋や、イネの仲間（イネ属）の標本などを通して、「植物としてのイネ」を振り返ります。

学

2

米の歴史

—歴史をさぐる手がかり—

約一万年前に中国で始まったとされる米作りは、のちに日本を含む世界中に広がっていきました。そのストーリーをさぐる研究と最新の知見を紹介します。

史

3

環境と稲作

—自然を巧みに使う工夫—

ところ変われば、稲、変わる。稲作の形態も変わる。それは、地球上の様々な自然環境で暮らす私たちが人の営みによるものだからこそ、他なりません。

環

4

田んぼと生物多様性

—田んぼは豊かな自然の象徴か？—

田んぼの生物、大集合！ 稲作方法の変化により生物の顔ぶれも変わります。彼らのプロフィールを紹介し、いま田んぼで何が起きているのかを考えます。

里

5

田

関連イベント

開催期間中には、米についてより深く知り、より楽しめるイベントを多数ご用意しております。本紙掲載以外のイベントにつきましてはミュージアムHPの特設ページ（下記）をご覧ください。

講演会・対談

ここでしか聞けない貴重なお話ばかり。
対談のほかに、講演会の開催も予定しています（下記「特設ページ」をご覧ください）。

要予約

対談 野生イネに魅せられた天才 — 彫刻家・田辺光彰 —

世界的アーティストの素顔と情熱。氏はいかにして野生イネに魅せられ、氏が生み出す作品はなぜ世界から求められたのか。身近に接してきた方だからこそ知る秘話が、いま明らかされます。

[日時] 1月14日（日） 14:00-15:00
[講師] 佐藤 洋一郎（ミュージアム館長）
田邊 美紗代（田辺光彰美術館館長）
[料金] 観覧料のみ [対象] どなたでも
[定員] 100名 [会場] ミュージアム2F講堂



対談 米と和食 — これほど環境にやさしい「食」はない —

日本の風土と社会が醸成した食文化「和食」。その成立や変遷、特性、面白さなどについて「米」の視点から語りつくす、気鋭の料理人と和食文化の伝道者・ミュージアム館長による対談です。

[日時] 2月25日（日） 14:00-15:00
[講師] 佐藤 洋一郎（ミュージアム館長）
※対談者は、特設ページ（下記）でご確認ください
[料金] 観覧料のみ [対象] どなたでも
[定員] 100名 [会場] ミュージアム2F講堂



体験講座等

親子で楽しめるさまざまな体験講座もご用意しています。

要予約

縄をなう

米を収穫したあとの稲わらは、さまざまな形で利用されます。稲わらを使って、縄をなってみましょう。



[日時・会場] ※特設ページ（下記）でご確認ください
[講師] ミュージアムサポーター
[料金] 観覧料のみ [対象] どなたでも
[定員] 20名

甘酒と水あめ

あの「甘さ」は何なのか？ 米や稲・麦を使って、甘酒と水あめを作りましょう。2日間で行うイベントです。



[日時・会場] ※特設ページ（下記）でご確認ください
[講師] ミュージアムサポーター ※両日とも
[料金] 観覧料のみ [対象] どなたでも
[定員] 15名

雑穀米★オールスターズ

様々な穀物からなる雑穀米。その実を仕分けて、それぞれがどのような植物なのかを学びましょう。



[日時・会場] ※特設ページ（下記）でご確認ください
[講師] ミュージアムサポーター
[料金] 観覧料のみ [対象] どなたでも
[定員] 20名

サイエンスカフェ

ミュージアム研究員によるサイエンストーク。図鑑カフェで購入いただいた飲みものをお供に、気軽にお楽しみいただけます。

テーマ1 田んぼは豊かな自然の象徴か？

自然豊かに見える田んぼで、いま何が起きているのかをさぐります。

11月26日（日）「田んぼの生き物今昔」 岸本 年郎
12月 3日（日）「田んぼの魚の由来とゆくえ」 渋川 浩一
12月17日（日）「田んぼにくらす両生類」 岡宮 久規

テーマ2 アジアで出会った旨いもの：米編

アジア諸国を渡り歩いてきたミュージアム研究員が、現地の様子や旨いものを語りつくします！

2月10日（土）「メコンと米と旨いもの」 渋川 浩一
2月24日（土）「一日一麺！ミャンマー・タイの化石調査から
見えてきた米麹の魅力」 西岡 佑一郎
3月 2日（土）「野菜探しの旅と調査メシ
～ヒマラヤ南麓から日本まで～」 小川 滋之

要予約

[時間] 14:00-14:45
[料金] 無料
（図鑑カフェで飲みものを購入してご参加ください）
[対象] どなたでも
[定員] 各回20名
[会場] ミュージアム2F 図鑑カフェ
※いずれも各回共通



展示解説

展示を担当したミュージアム研究員が展示室で解説します。

ギャラリートーク

予約不要

[日時] 11月・1月・3月の第3日曜日
※いずれも14:00-14:30
[料金] 観覧料のみ [対象] どなたでも
[定員] 各回20名程度 [会場] 企画展示室1・2

イベント参加には事前申込が必要です。
※ 展示解説のみ予約不要

申込に関する詳細は、ミュージアムHPの「企画展」(https://www.fujimu100.jp/exhibition-category/planning/) から本展の特設ページに入り、ご確認ください。あるいは下記「お問い合わせ」先までご連絡ください。



[特設ページ]

Tickets 有料企画観覧料

一般
600円(500円)*1
小学生以上大学生以下の方、70歳以上の方*2
300円(200円)*1
障害者手帳をお持ちの方*3
無料

*1 ()内は前売及び20名以上の団体料金。
*2 学生証、免許証、保険証等の証明書を御提示ください。
*3 身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている方とその付添者1名は無料となります。

建物への入館は無料です。
展示室1、2、図鑑カフェが御利用いただけます。



Access アクセス

〒422-8017 静岡市駿河区大谷5762
(旧 県立静岡南高校)

《自家用車でお越しの場合》
ナビでお越しの際は、住所で検索してください。

- 東名高速道路日本平久能山スマートICから5分
- 東名高速道路静岡ICから15分
- JR静岡駅から20分
国道150号バイパスから「大谷放水路東」を左(右)折し、消防署前交差点を右折してください。
- 駐車場 無料(200台)

《公共交通機関でお越しの場合》

- JR静岡駅北口バスターミナル
8番乗り場から美和大谷線
「ふじのくに地球環境史ミュージアム」行き(30分)で終点下車